

## 第三十六回企業活性化研究分科会・議事録

<第三十六回 2010年11月20日(土) 時間:13:30~17:00 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:井端、魚谷、大野、大柳、齋藤、菅原、杉本、高市、長井、星野、宮川、山本、依田、渡邊
2. テーマ①  
『“Corporate Governance and Financial Constraints on Strategic Turnarounds” by Igor Filatotchev and Steve Toms』の翻訳及び検討  
・報告者:依田光広
3. テーマ②  
『アイ・ビー・イーホールディングスの税効果会計について』の報告  
・報告者:中村大輔(欠席のため、代読)  
・配布資料:3枚
4. テーマ③  
『ターンアラウンド戦略の類型と効果』に関する報告  
・報告者:大柳康司  
・配布資料:抜刷冊子1冊
5. テーマ④:粉飾企業の分析  
・報告者:大野喜一  
・配布資料:7枚  
・報告内容の要旨

本報告は、JDC 信託株式会社(以下、「同社」という。)の粉飾について分析したものである。同社は、平成18年3月期における連結最終赤字の過少記載や平成18年9月期(中間報告)における連結純資産額の過大記載など、信託財産の流用や循環取引による有価証券報告書の虚偽記載を行い、金融庁から3ヶ月間の一部業務停止命令を受けた。

本分析では、平成10年3月期から平成21年3月期までの主な財務数値における訂正状況の整理および検討、平成17年3月期から平成20年3月期までの訂正前後の財務数値の差額および財務比率の差分から分析を試みている。

同社の財務数値をみると、売上高の増加に対して経常利益の増加幅が小さい点、営業キャッシュフローがマイナスを示す点など、財務数値の異常な点が随所にみられた。これらの点は、平成17年3月期から平成21年3月期までの利益はマイナスを示しているにもかかわらず、第三者割当増資による資金調達が行うために、不適切な会計処理が行われ、虚偽記載をおこなったといえる。また同社は、信託業法により最低資本金が定められているため、売上高と純資産の確保のための粉飾行動に至ったと結論づけている。

(文責:齋藤幸雄)